令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　学校番号２６３　練馬区立南が丘小学校

	課題分析	授業改善策
全学年	・各教科で調べ学習をした際に、必ず参考文献を明記することや、インターネット上の情報の正確性を判断する力、ルールやマナーを守って情報を発信する態度について継続的な指導が必要である。 ・児童の ICT 技能の習熟度合いに差があるため、効果的に ICT 機器を学習活動で活用できない場面があった。	・調べ学習を行う際には、毎回参考文献を記載することについて教員から声掛けを行う。また情報モラル講習会等で学習した内容を、必要に応じて日頃から繰り返し振り返らせる。 ・区から示されている「タブレット活用スキル表」を参考にし、計画的に各学年で必要な技能を身に付けさせる。
１年	・１学期末にタブレットを導入し、ログインの仕方、クラスルームの見方、返信の仕方を学んだ初期段階であるので、ICT 機器の基本操作に慣れる段階であり、学習活動での活用はこれからである。 ・クラスルームへの返信は、文字入力（手書き）を指導したが使いこなせてはいない。一部の児童は返信をすることができている。	・児童がタブレットに親しんでいけるように、タブレットを使って絵を描いたり、文字を書いたり、写真を撮ったり、簡単なことから進めていく。 ・文字を書くことと、タブレットに慣れ親しませることを関連させながら、他のアプリケーションを活用できるように指導をしていく。
２年	・児童用タブレットを活用した学習には、どの児童も意欲的である。手を止めて話を聞く、学習に関係のあるサイトだけを開くなどは、一部の児童に課題が残る。 ・タイピング練習アプリに慣れ親しんでいる児童が多く、ぱっと示された単語の入力はできる児童が半数程度いる。一方、自分の考えをまとめながら文章を打つ能力は、大半の児童がまだ身に付いていない様子である。 ・週に２・３度、ドリルパークを活用して宿題を出しており、どの児童も年度当初に比べると、操作に慣れてきた。	・引き続き、授業の中で児童用タブレットを活用できる場面を考えていき、児童がその良さを実感できるようにしていく。児童が使用中は Win Bird を活用し、適切な使用ができるよう支援する。 ・朝の ICT の時間で、文章を打つような課題を考え、取り組ませる。また、国語「秋がいっぱい」「冬がいっぱい」など２文程度の文章を書く学習の際、モデル文を示して活用させていくことで、無理なく慣れ親しませていく。 ・カルテを励みとして自主的にドリルパークに取り組むよう促したり、宿題として計画的に既習事項を確認させたりすることで、楽しみながら基礎的・基本的な学力の定着を目指していく。
３年	・タイピングの技能（速さ、正確さ）に差があり、自分の考えを表現する際、時間がかかる児童がいる。 ・調べる活動を行う際、適切な言葉で検索することが難しい。 ・アプリケーションの活用方法や活用場面に応じた技能が十分に定着していない児童がいる。	・朝の ICT の時間を中心に、正しい指の位置を意識させながら、タイピング練習に取り組ませる。 ・教師があらかじめ児童にとってわかりやすいサイトを選んでおき、クラスルームなどで送って活用させる。また、文章でなくキーワードで入力して検索することや、できるだけ公的なサイトを使うことを指導していく。 ・計画的に ICT ツールを利用する学習内容を取り入れる。児童の活用能力を向上させるため、ICT 支援員の協力を得る。

４年	・まなびポケットや Google クラスルームなどの基本的な操作が身に付いているが、タイピングの技能は個人差が大きい。 ・タブレットの活用に意欲的だが、操作に集中しすぎることがあるため、学習規律の確立が課題である。 ・インターネット上の情報の正確性を判断する力や、ルールやマナーを守って情報を発信する態度については、情報モラルの指導を継続的に行っていく必要がある。 ・Forms を活用したアンケート作成や集計の経験が児童になく、操作方法が身に付いていない。	・朝の ICT の時間を活用し、正しい指使いでのタイピングが身に付けられるようにしていく。 ・Win Bird やまなびポケットの共有機能を使いながら、作業時間を明確に提示したり、話を聞くことに集中できる環境を意図的に整えたりする。 ・情報モラル講習会等で学習した内容を、日常の調べ学習や情報発信の場面において繰り返し振り返らせる。 ・国語などの授業で、アンケートを使った適切な情報収集の仕方について学び、実際に Forms を使って調べたことを発表する学習場面を作っていく。
５年	・全体的にタブレットを用いた学習には意欲的である。一方で、タイピング等の特定の活動に没頭するあまり、本来の学習目的よりも優先してしまう傾向が見られる。ICT を「学習の道具」として適切に制御して活用する、情報モラルや学習規律の確立が課題である。 ・社会科や総合的な学習の時間等のまとめ学習において、膨大な情報から必要な文章を正しく読み取り、要点を端的にノートやスライドへまとめることに困難を示している。また、内容（中身）の推敲よりも、モーション機能等の視覚的な演出（見栄え）を優先させてしまう児童が見られる。 ・報告書をドキュメントで作成する際、段落の設定や会話文の書き方といった基本的な作文のきまり（言語情報の扱い）が身に付いておらず、思考を論理的に文章化する力に課題がある。 ・算数において、４年生までの既習事項（特にかけ算九九や図形の技能面）が身についておらず、高学年の内容の難化に伴い、学習内容の定着に課題が見られる。	・毎時間の導入で「タブレットを使って何を達成するか」という学習ゴールを明確に示し、目的外利用を防ぐ指導を徹底する。また、スライド作成時には、まずアナログのワークシート等で「構成案（キーワードの整理)」を作成させてから端末操作へ移行させるなど、思考を深めるプロセスを重視する。 ・まとめの活動において、「内容の正確さ」や「分かりやすさ」を重視した評価指標を事前に提示する。モーション機能等の演出については一定の制限を設けるか、内容の充実度を確認した後に活用させる。Win Bird や Google サイト等の共有機能を活用し、友達のまとめ方（要約の工夫）を参考にし合う時間を確保する。 ・国語科を中心に作文の基本ルールを再確認する指導を徹底し、社会科や総合的な学習の時間におけるデジタル記述の際にも、正しい段落構成や記述法を意識させる。デジタル教科書やテンプレートを活用し、視覚的に正しい構成を捉えさせる支援を行う。 ・かけ算九九の練習ソフトや、デジタル教科書の図形操作を用いて、既習の内容を繰り返し練習させたり、視覚的に理解しやすい授業を設計したりする。

6年	・タブレット上での計算を苦手にしている児童がいる。 ・オクリンクプラスやドキュメント、スライドは授業で積極的に活用しているが、スプレッドシートを活用していないため、操作方法が身についていない。 ・インターネットで調べた内容をスライド等にまとめる際、参考文献を明記する習慣が十分に身についていない。	・問題に応じて、ドリルパークとプリントを使い分けていく。ドリルパークでは、即座に正誤の確認ができる機能を活かして、正しく計算する力を高めていく。 ・スプレッドシートを活用した授業計画を立て、児童が活用する頻度を増やしていく。 ・教員からの声掛けを継続的に行い、どんなときでも参考文献を掲載する意識を定着させていく。
専科	【音楽】 学習課題を把握し、課題解決に向けて主体的に学習を進めることが難しい。 【図工】 タブレットで検索した写真やフリー画像に依存しすぎる傾向がある。 【理科】 実験結果の共有や比較ができず、考察の内容が不十分である。	【音楽】 オクリンクプラスやスプレッドシート等を用いた学習計画と振り返りカードを作成し、児童が課題を把握し学習の進め方について自己調整したり、学びの積み重ねを実感したりしながら学習に取り組めるようにする。 【図工】 検索結果をいったんスケッチさせるなどして、タブレットを開きっぱなしにしないようにするとともに、児童が自ら工夫し、考えて生み出したものを生かせる課題を設定する。 【理科】 タブレット端末を用いて一括で実験結果を入力できるようにする。各班の結果を一覧できるようにすることで、適切な考察を行うことができるようにする。